

すべての内科医が知りたい 神経疾患の診かた、考え方と その対応

CONTENTS

序	大生定義	3
Color Atlas		8

第1章 総論・診断の道筋と診療のためのミニマムエッセンス

1. 診断の流れの大枠	大生定義	14
2. 神経内科診療の特徴	大生定義	18
3. 神経学的診察法の概要	大生定義	24

第2章 よくある主訴・症状への対応

1. 頭が痛い（頭痛） 一次性頭痛か、二次性頭痛か	根来 清	30
2. 顔と眼の痙攣 眼瞼痙攣と片側顔面痙攣	日崎高広	35
3. ものがだぶって見える（複視） 脳？脳神経？筋？	長谷川 修	39
4. 嘉下困難 どの相の障害か	片多史明	45
5. 言葉のもつれ 構音障害か失語性の発話障害か	高橋伸佳	50
6. 手足のふるえ どのような状況でみられるか	荻野 裕	54
7. 手足の脱力 脱力の診断の出発点は、原因レベル (中枢性？神経原性？筋原性？) の特定	東原真奈、園生雅弘	59
8. 手足がうまく使えない 麻痺・筋力低下のない場合	三澤園子	63
9. 手足のしびれ 解剖学的に考える	奈良典子、長谷川 修	67

10.	めまい, ふらつき 末梢性か中枢性か	大生定義	73
11.	歩行障害 責任病巣はどこか	大垣光太郎, 大熊泰之	77
12.	痙攣 全身性か局所性か, 意識障害はあるかないか	飯嶋 瞳	82
13.	意識障害 診かた・鑑別・すぐ必要な処置	野村 悠, 箕輪良行	87
14.	気を失った(失神) ほんとうに失神か	梁 成勲, 永山正雄	93
15.	記憶障害(物忘れ, 健忘) どのような発症形式か, 障伴症状はあるか	林 竜一郎	100
16.	行動の異常(せん妄) 低活動型か過活動型か	林 竜一郎	105
17.	不眠 不眠を診分ける	樋山光教	109
18.	脳死判定 除外基準, 評価項目は何か	田島康敬	116

第3章 知っておくべき神経疾患

1.	脳卒中①: 脳梗塞, 一過性脳虚血性発作	山口滋紀	124
2.	脳卒中②: 脳出血, くも膜下出血, もやもや病	山口滋紀	129
3.	脊椎脊髄疾患	安藤哲朗	136
4.	Alzheimer型認知症	浦上克哉	144
5.	レビー小体型認知症と前頭側頭型認知症	浦上克哉	153
6.	血管性認知症, 正常圧水頭症	浦上克哉	158
7.	中枢神経系感染症	木村哲也	164
8.	Parkinson病	山田人志	169
9.	Parkinson症候群(パーキンソニズム)	山田人志	174
10.	脊髄小脳変性症	木村哲也	179
11.	運動ニューロン疾患	成田有吾	184
12.	筋無力症 重症筋無力症, Lambert-Eaton症候群	佐橋 功	192
13.	多発性硬化症, 視神経脊髄炎	新野正明, 菊地誠志	198
14.	不随意運動をきたす疾患 Huntington病, 顔面痙攣／眼瞼痙攣, 痙性斜頸／書痙, 本態性振戦	長谷川一子	203

15.	てんかん	廣瀬源二郎	212
16.	末梢神経疾患	齋藤豊和	217
17.	顔面神経麻痺, 外転神経麻痺, 滑車神経麻痺, その他の脳神経麻痺	林 竜一郎	224
18.	よくみるニューロパチー	長谷川 修	228
19.	筋疾患（ミオパチー）		
	筋ジストロフィー・筋強直症候群, 特発性炎症性ミオパチー, 感染性・遠位型・先天性・代謝性ミオパチーなど	門間一成, 川井 充	236
20.	頭痛・顔面痛 片頭痛, 緊張型頭痛, 群発頭痛, 三叉神経痛	竹島多賀夫	240
21.	プリオン病・亜急性硬化性全脳炎	三浦義治, 岸田修二, 水澤英洋	248
22.	めまい BPPV を中心に	野村 悠, 箕輪良行	253

第4章 一步進んだ診察のために知っておきたい疾患

1.	進行性多巣性白質脳症	三浦義治, 岸田修二	262
2.	副腎白質ジストロフィー	鈴木康之	265
3.	ウィリス動脈輪閉塞症（もやもや病）	野川 茂	267
4.	肥厚性脳・脊髄硬膜炎	米川 智, 吉良潤一	271
5.	急性散在性脳脊髄炎	新野正明, 田代 淳, 菊地誠志	274
6.	痙性対麻痺	長谷川一子	276
7.	HAM (HTLV-1 関連脊髄症)	山野嘉久	279
8.	ミトコンドリア病（ミトコンドリア脳筋症）	後藤雄一	282
9.	脊髄空洞症	安藤哲朗	290
10.	慢性硬膜下血腫	村形 敦	292

第5章 神経症状を呈する他分野の疾患

1.	甲状腺と神経症状	大生定義	298
2.	膠原病	前田明子, 上坂義和	302

3.	がんに関連する神経症状	林 祐一, 犬塚 貴	311
4.	糖尿病による神経症状	林 竜一郎	317
5.	肝性脳症など, 代謝異常と神経症状	宮嶋裕明	322
6.	Wernicke脳症など, ビタミン欠乏症と神経症状	宮嶋裕明	326
7.	薬物による神経症状	亀井徹正	330

第6章 | 診療のための重要な検査

1.	髄液検査	木村哲也	336
2.	脳波	飯野光治	340
3.	神経伝導検査と筋電図検査	飯野光治	344
4.	自律神経機能検査	國本雅也	350
5.	筋生検と神経生検	前田明子, 上坂義和	354
6.	遺伝子診断（遺伝子検査）	吉田邦広	359
付 錄			364
索 引			370

Column

緩和ケア	23	医療における特定疾患と介護保険の活用	162
嚥下障害への対処で思うこと	49	正常圧水頭症の診断・治療などの流れ	163
過換気症候群ではどうしてしびれるか	71	神経変性:蓄積物質と疾患の分類	178
なぜ神経障害でしびれ、痛みが生じるか	72	コミュニケーション機器の活用	188
意識障害に対する編者のアプローチ —基礎情報を大切にする	92	難病患者の診療にあたって	191
失神診断の新しい武器	99	Huntington病の発症前遺伝子診断と倫理	207
不安、抗不安薬について	115	てんかんおよびてんかん症候群の分類について	216
抜歯、消化管内視鏡時に抗血小板薬・ワルファリンの中止は必要か	128	薬物乱用頭痛と慢性片頭痛	242
間欠性跛行	143	三叉神経自律神経性頭痛(TAC)	245